『フォーラム接点』実践報告 ⑥

山本敏久初代会長の逝去

七鹿社会教育協会

◎平成二十九年四月、七鹿社会教育協会初代会長山本敏久氏が永眠されました。本誌の記事としては趣旨が違うということを充分承知の上で、あえて追悼の記事で埋めさせていただきたいと思います。

山本氏は、元々柔道の指導者で、特に青少年の指導者として多くの実績をあげてこられた方でした。その実績に対しては七尾市長、石川県知事、文部大臣等から表彰を受けてこられ、スタート時の七鹿協会の会長に御願いするのは、いささか気が引けるような気がしましたが、スタート時だからこそ、会に重みをつけるためにも是非とも御願いしたいと言うことで、厚かましくも御願いしたという経緯があります、幸い氏は快くお引き受け下さって協会は出発したわけですが。何しろ何もないところからスタートした訳なので、どうすれば良いのか皆目見当がつかない、そこで県協会や先進地の小松市協会等のやり方を参考にして、何とか体裁を整え設立総会を開いたのが平成二十年六月二十一日で当時県協会の会長であられた奥名洋明氏をお迎えして華々しく出発しました。その時の写真がありますので、掲載します。

設立総会風景

奥名県協会長のご挨拶

設立総会では、毎年情報誌を作成し全会員に配布することが決定した。第一号に山本会長の巻頭言が載っていますので、全文を紹介します。

「平成二十年六月二十一日七鹿社会教育協会が設立され、その会長に選出されました。何分にも高齢故固辞しましたが、先輩諸氏の強い要請により受諾致しましたが、体力・知力ともに酷く減退しており、其の職を全うできるのか心痛しております。私はアメリカの詩人サムエル・ウルマンの『青春』という詩が大好きです。『青春とは人生のある期間ではなく心の持ち方を言う。ときには二十歳の青年よりも六十歳の人に青春がある。年を重ねただけで人は老いない。理想を失うときはじめて老いる。頭を高く上げ希望の波をとらえるかぎり八十歳であろうと人は青春の中にいる』（宇野収・作山宗久訳）時々詠みながら人生のモットーにしています。

私共は若いころは人生五十年の観念で五十歳以降余生、付録のようなもの、おまけのような人生と思っていましたが。現在では五十歳は人生の折り返しの年齢で、私もおまけの人生を二十七年も頂いた計算になります。

私は学校教育でも社会教育でも指導者としての経験がありませんので教育者としての心構え等は中々申し上げることはできませんが、昭和四十三年頃自宅に併設して柔道場を建てて、平成三年に七尾武道館が建設されるまでの約二十四年間青少年に開放して柔道の指導を行ってきました。その間の入門者の名簿を整理したところ、延べ約七百名にもなり驚いたり感無量の思いでありました。柔道に限らず武道全般に言えることは、その基本である「心」「技」「体」をバランスよく身に着くような指導を行うことだと思って実行してきました。その練習によって礼儀作法や他人に対する思いやりの心を学んだことと思います。これが唯一私の社会活動であったのかなあと考える次第です。

挨拶がひどく脱線してしまいま

したが、会員の皆様一人一人が行動されることによって、この会が一層活力のあるものになると思います。

ご理解とご協力を御願い申し上げてご挨拶と致します。有り難うございました。」

以上が全文ですが、非常に謙虚な中にも人生の先輩として、誰にも譲れないものを持っているという自信がほとばしっている、格調の高い文章ではありませんか。

山本氏は初代会長として、平成二十年度から同二十五年度までの三期六年間私たち会員の心の支えとして協会をリードしていただきました。その間協会の事業として、交流事業、顕彰事業、情報誌の発行事業の三本柱をスタートさせ、その後指導者研修事業を加えて四本柱を確立されました。また、その広い人脈を活用されて、会員の拡大を図り、多くの新会員の獲得に尽くされました。山本氏の活躍を柱ごとに写真で追いかけて見たいと思います。

◎交流事業

先進地小松市との交歓会

◎指導者研修事業

山中の薬師寺での研修

羽咋市でのテーブルマナー研修会

鹿島少年自然の家での研修風景

◎設立五周年記念事業

平成二十五年六月十五日に設立五周年記念事業として、県協会のご支援を受け、テレビのアニメ「サザエさん」のマスオさんの声優として活躍中の増岡弘氏の講演会を実施しました。（写真）

◎山本会長はこの事業を最後に会長職を現在の濱田氏に譲られ、自らは参与として、後進の指導に当たっておられましたが、間もなく体調を崩されたということで、一切の行事に参加されなくなってしまいました。私どもは多少の心配はありましたが、老いて益々、といっては大変ご無礼な話ですが、いたってお元気で、趣味がドライブということで、お一人で泊まりがけで県外へ出かけることがよくある、とご自分でおっしゃっていたこともあり、恐らく大したことはないだろうと思っていたのですが四月に入って間もなく、帰らぬ人になってしまいました。

山本前会長には、全くかたちになっていなかった当協会の初代会長として、人に言われないご苦労をされ、何とか規約や事業も整い、さあこれからという時に幽冥異にされたことは、我々後進にとって何とも無念でやるせない思いです。山本前会長のご冥福を祈って筆を置くことに致します。

「接点」の原稿としては甚だ型破りで、大変失礼な文になってしまいましたが、七鹿社会教育協会の初代会長として我々の行動の中心にいて暖かく支えて下さった山本前会長に捧げる意味で駄文をお読みいただければ幸いです。